

修士課程

工学研究科
ディプロマポリシー

カリキュラム・ポリシーに沿った授業科目を履修するとともに、修士論文の審査及び試験に合格すること。
【修士論文の評価】
研究の学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有しているかどうか。
研究の推進能力、研究成果の論理的説明能力、研究分野に関連する幅広い専門的知識、学術研究における倫理性を有しているかどうか。

カリキュラムポリシー

学士課程での教育によって得た成果を発展させ、研究分野に関する幅広い専門的知識を修得させるとともに、既成の専門分野にとらわれずに分野横断的に学修するカリキュラムを編成・実施し、広い学識をも修得させる。	研究を通じた教育や実践的教育を介して、研究の推進能力、研究成果の論理的説明能力、学術研究における倫理性等を備え、自ら課題を発見し解決する能力を有する高度技術者、研究者を育成する。	自己の研究を各専門分野において的確に位置づけ、その成果と意義を国際的な水準で議論し、必要に応じて協力体制を構築できる能力を育てる。
---	---	---

都市環境工学専攻の理念・教育方針 『健康，社会，そして未来』

- | | | | |
|---------------------|---------------|--------------------|-------------|
| ①顕在化/潜在化する地域環境問題の解決 | ②健康を支援する環境の確保 | ③持続可能な地球環境・地域環境の創成 | ④新しい環境科学の構築 |
|---------------------|---------------|--------------------|-------------|

2年目

修士論文の執筆

1年目

ORT科目等

- ・都市環境工学セミナーA
- ・都市環境工学セミナーB
- ・環境工学実践セミナー
- ・都市環境工学演習A
- ・都市環境工学演習B

応用発展科目

- | | | |
|------------|---------------|-----------|
| ・環境微生物学特論 | ・環境衛生学特論 | ・地圏環境工学特論 |
| ・環境資源循環技術 | ・環境リスク管理リーダー論 | ・新環境工学特論I |
| ・新環境工学特論II | ・環境工学先端実験演習 | など |

基幹科目

- | | | |
|--------------|---------|-------------|
| ・環境リスク学 | ・都市代謝工学 | ・循環型社会システム論 |
| ・水環境工学 | ・水質衛生工学 | ・原子力環境工学 |
| ・大気・地球環境工学特論 | | |

アドミッションポリシー

- ・ 工学研究科が掲げる理念と目的に共感し、これを遂行するための基本的能力と意欲を有する人。
- ・ 自ら真理を探究するために必要な基礎学力を有し、既成概念にとらわれない認識力と判断力を有する人。
- ・ 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲と実行力に満ちた人

